

## 彙 報

### 昭和 48 年度第 1 回委員会

日時・場所：昭和 48 年 4 月 7 日，学士会館木館

出席者：（ ）内は委任状受託数

上村幸雄，国広哲弥 (1)，江 実 (1)，佐藤純一，佐藤則之，柴田武 (10)，千野栄一，徳川宗賢，長谷川欣佑，服部四郎 (3)，前田護郎，湯川恭敏，[白紙委任 2 名，委員総数 40 名]；竹内公誠 (幹事)，藤井寧子 (囑託)

- 議 事：1) 昭和 48・49 年度委員長に柴田武氏，編集委員長に北村甫氏を選出した。委員長の選挙は開票の結果過半数に達した者がなかったので上位得票者柴田武・服部四郎両氏の間で決選投票の結果同数となったが，開票以前の決議に従い，抽選により柴田武氏が委員長に当選した。
- 2) 委員会の今後の運営について審議したが，結論は持ち越した。
- 3) 東洋学研究連絡委員会委員の交代について，次期委員の選出を柴田委員長に一任することにした。

### 昭和 48 年度第 2 回委員会

日時・場所：昭和 48 年 5 月 10 日，学士会館木郷分館

出席者：（ ）内は委任状受託数

池上二良，井上和子，小沢重男，岸本通夫，北村 市，日下部文夫，国広哲弥 (1)，小泉 保，江 実，佐藤則之，塩谷 鏡，柴田武 (13)，長谷川欣佑，服部四郎 (2)，藤村 靖，湯川恭敏，[白紙委任 3 名，委員総数 40 名]；井上史雄 (幹事)，樋口時弘 (幹事)

- 議 事：1) 秋に開くべき今年度の大会について  
上智大学ほか 2 大学を開催候補校として交渉することになった。  
なお公開講演の代りに「日本語の起源」をテーマにシンポジウム

を計画することになった。

2) 委員会の体制・運営について

新幹事 井上史雄氏・樋口時弘氏およびもう一名（未定）が紹介された。

委員長より常任委員会および副委員長を設けないで運営することについて提案があり、了承された。なお5月15日から9月2日までの委員長の海外出張の間は北村甫氏に委員長代理を委嘱したいとの委員長の提案が了承された。

とりあえず柴田武委員長を学会の代表者とする。

編集委員長北村甫氏より、次の諸氏を編集委員に指名した旨報告があった。

梅田 博之（再）、小泉 保（再）、千野 栄一（新）、

徳川 宗賢（再）、長谷川欣佑（再）、堀井令以知（新）、

松田 伊作（再）。柴田 武（委員長）、北村 甫（編集委員長）

東洋学研究連絡委員を小沢重男氏に委嘱した旨、委員長から報告があった。

九学会連合委員を徳川宗賢氏に委嘱した旨、委員長から報告があった。

会計監査委員として井上和子氏・日下部文夫氏が委嘱された。

3) その他

東洋学研究連絡委員会における、国際東洋学会会議の日本開催に関する日本言語学会の態度を次のように決めた：「現在のところ学会全体として協力することは約束できない。しかし開催に反対すべき理由はない。」

「言語研究」の編集をはじめ学会の運営について根本的に考えなおすべきだという意見をめぐって討論が交され、そのための小委員会設置などについて、次回で改めて議することになった。

第 27 回九学会連合大会

昭和 48 年 5 月 11 日上智大学にて開催。テーマは「沖縄」。本会から加藤正信

氏による「宮古平良市方言における生活時間語彙」と題する発表があった。

### 昭和48年度第3回委員会

日時・場所：昭和48年6月16日，虎ノ門共済会館

出席者：( )内は委任状受託者

岸本通夫，北村 市 (13)，日下部文夫，国広哲弥，江 実，  
佐藤則之，徳川宗賢 (1)，前田護郎，湯川恭敏，[委員総数40名]；  
井上史雄 (幹事)，薮 司郎 (幹事)

- 議 事：1) 第68回大会は，上智大学において昭和48年10月20日(土)，  
21日(日)に開催することになった旨報告があり，また，同大会  
において開催されるシンポジウム「日本語の起源」について，村山  
七郎氏ほか数名に発表を依頼することになった旨報告があった。
- 2) 大会の研究発表応募の際提出する発表要旨の字数を検討した結果，  
「800字ないし1,600字」とすることとした。
- 3) 制度検討のための小委員会の設置について検討した結果，継続議  
題として次回委員会において，さらに検討を加えることとした。  
その間できるだけ多数の委員から書面等により意見を寄せてもら  
うこととした。
- 4) 「言語研究」第64号を前委員長故高津春繁博士の追悼号とし，巻  
頭に博士の写真を掲載し，辻直四郎評議員に追悼文，風間喜代三  
氏に「言語学者としての博士の生涯」と年譜，主要論著目録の執  
筆を依頼することとした。
- 5) 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手薮司郎氏に  
幹事を委嘱することになり，紹介された。

◇ 本誌は文部省昭和48年度科学研究費補助金の交付を得て刊行されたものです。